令和２年度

岐阜県青少年赤十字

研究推進モニター校活動事例集

日本赤十字社　岐阜県支部
Japanese Red Cross Society

2022 年は青少年赤十字創設 100 周年

目　　次

はじめに
岐阜市立長良小学校 … P. 1
羽島市立竹鼻小学校 … P. 2
各務原市立那加第二小学校 … P. 3
瑞穂市立中小学校 … P. 4
大垣市立中川小学校 … P. 5
養基小学校養基保育所組合立養基小学校 … P. 6
大野町立大野小学校 … P. 7
関市立金竜小学校 … P. 8
美濃加茂市立山之上小学校 … P. 9
七宗町立神淵小学校 … P. 10
白川町立黒川小学校 … P. 11
土岐市立濃南小学校 … P. 12
中津川市立西小学校 … P. 13
中津川市立加子母小学校 … P. 14
高山市立山王小学校 … P. 15
高山市立国府小学校 … P. 16
下呂市立尾崎小学校 … P. 17
下呂市立上原小学校 … P. 18
岐阜市立陽南中学校 … P. 19
大垣市立赤坂中学校 … P. 20
土岐市立肥田中学校 … P. 21
恵那市立恵那東中学校 … P. 22
中津川市立第一中学校 … P. 23
各務原市立各務原特別支援学校 … P. 24
岐阜県立郡上特別支援学校 … P. 25

＜表紙の写真　キックオフの会の様子＞

◆　上の写真　恵那市立東中学校

◆　下の写真　白川町立黒川小学校

は じ め に

青少年赤十字では、子どもたち一人一人が「人道」「博愛」の心を大切にし、人類の幸せや世界のために尽くせるような人間になるための取組として、**『健康・安全』**、**『奉仕』**、**『国際理解・親善』**の3つを実践目標として掲げ活動しています。

多くの学校現場においては、上記の実践目標と重なる内容の学校経営や教育実践が進められていると思います。日本赤十字社岐阜県支部におきましては、それらの活動を支援させてもらうと共に、子どもたちに青少年赤十字で大切にしていることを身に付けてもらえることを目的に、例年、研究推進モニター校の募集を行い、数多くの応募校の中から25校を指定し支援させていただいています。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため通常の学校運営ができずに、当初計画していた内容が十分にできない状況でした。しかし、そういった状況にも関わらず、各研究推進モニター校においては、創意・工夫をしながら**健康・安全、奉仕、国際理解・親善**といった内容と関わらせながら研究実践を推進していただきました。

また、子どもたちが活動する際には**「気づき」、「考え」、「実行する」**という青少年赤十字の態度目標を意識して、人道・博愛の精神を具現化する取り組みにも努めていただきました。

本事例集では、子どもたちが多くの人と出会い、学び、様々な体験や発見等を通して、豊かな心を育み、たくましく成長していく実践が綴られています。豊かな心とたくましさを身につけた子どもたちが、これからも人道、博愛の精神を持ち続け、様々な場で活躍してくれることを願っています。

この事例集が、多くの学校において「豊かな心を育む教育活動」推進の一助となれば幸いです。

本事例集をまとめるにあたり、貴重な実践成果をご紹介いただいたモニター校の校長先生方にお礼を申し上げると共に、ご多用の中、原稿の執筆等にご協力いただきました先生方には心より感謝を申し上げます。

令和3年4月1日

岐阜県青少年赤十字指導者協議会
日本赤十字社岐阜県支部

１　岐阜市立長良小学校

学　校　名	岐阜市立長良小学校　　（校長　　林　則安）
活動の種類･単位	健康安全、特に歯と口腔の健康について全校で取り組んだ
教育課程上の位置付け	特別活動、その他（歯みがきタイム等）

１ 活動テーマ

自らの歯や口腔の健康課題解決に向け、実践できる子の育成

２ 主な活動内容

（１）学校歯科医による個別指導

定期健康診断終了後に、健診結果を基に歯科医より、児童一人一人鏡で自分の歯を見ながら、歯の模型を使用して、児童の歯の生え方やみがき残しが多い所のみがき方等を指導してもらった。

▲ 健診後にみがき方の指導を受ける児童

（２）歯みがきタイムの充実

給食後の歯みがきタイムでは、「歯みがきサンバ」の音楽を流してみがいていた。低学年は、音楽を聞くだけでは、どこをみがけばよいのか、歯ブラシの向きはどうすれば、よりきれいにみがけるのか、わかりにくいところがあった。

そこで、全校係の保健担当クラスが動画を作製した。

その画面を見ながらみがくことで、正しい歯ブラシの使い方や、音楽に合わせて１本１本丁寧にみがける姿が増えてきた。

▲ 歯みがきタイムの様子

（３）夏休み　親子歯みがき

例年よりも短い夏休みではあったが、感染症予防としても歯と口腔の健康を維持するため、初めて夏休み親子歯みがきを実施した。

染め出し検査を終えた高学年の保護者からは「久しぶりに子どもの口の中を見ました。いい機会になりました」児童からも、「感染症予予防にもなるので、１本１本ていねいにみがいて、むし歯にならないようにしたい」という感想があった。

▲ 親子歯みがきカード

子供たちに付いた力	・歯みがきタイムに動画を見ながらみがくことで、落ち着いて正しくみがける児童が増えてきた。 ・歯垢の染め出しを行うことで、自分のみがき方の課題がわかり、解決しようとする力がついてきた。
効 果	・歯みがき正しく行うことで、感染症の予防にもつながることが理解できた。 ・学校歯科医より、個にあったみがき方を指導してもらうことができた。
今後の方向	・歯と口腔の健康を自ら考え実践できる子の育成

２　羽島市立竹鼻小学校

学　校　名	羽島市立竹鼻小学校　（校長　豊島　博）
活動の種類・単位	健康安全、奉仕、国際理解について、全校で取り組んだ。
教育課程上の位置付け	特別活動（委員会活動）総合的な学習の時間（６年ＪＩＣＡ講習）その他（ＰＴＡ活動）

１ 活動テーマ

夢をもって「前へ」　～仲間とともに、自分の花を咲かせよう～

２ 主な活動内容

①健康安全に関わって

児童の健康で安全な生活を目的として、委員会活動で次のような取組を行った。

・運動委員会（グラウンド整備・竹馬や一輪車の点検整備・運動への取組）

安全に遊べるよう、朝の常時活動として、「グラウンド整備」「竹馬、一輪車点検整備」を行った。また、体力づくりのために、休み時間に外で遊ぶことを奨励し、みんなで一緒にゲームを行うイベントを計画した（新型コロナウイルス緊急事態宣言のため延期）。

▲ 一輪車の点検

・保安委員会（ウィルスに負けるなキャンペーン）

インフルエンザウイルスや新型コロナウイルスの感染予防のため、「ウイルスに負けるなキャンペーン」として、ウイルスの感染予防の取組を学級ごとに行った。学級で取組ができたら、パズルを１ピースずつ貼ることができ、学級全員で取り組むことができた。

②国際理解に関わって：６年生（国際理解）

６年生では、総合的な学習の時間に、国際理解にかかわる学習を行った。他の国の人々が困っていることや、その解決に向けて日本がやっていることを調べた。ＪＩＣＡから派遣された方を講師として、国際協力に関わる取組や願い等について話していただいた。国際理解の大切さについて考えた。

▲ 車椅子体験

③奉仕に関わって：５年生（福祉にかかわる学習）

５年生の総合的な学習の時間のテーマは「福祉」であり、すべての人が共生するための学習を行っている。今年は、「車いす体験」「高齢者疑似体験」「点字体験」を行い、体験を通して体が不自由な方や高齢者に自分がどのようにかかわればよいのかを考えた。

・ＰＴＡ奉仕活動・クリーン活動

今年は、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、親子別の活動になった。保護者は校庭の溝の泥上げや草むしり、子供たちは学級で床磨きを行った。活動を通して、学校をきれいにしてくださった保護者の方や、いつも使っている教室への感謝の心を育てることができた。

▲ PTA奉仕活動

子供たちに付いた力	・健康安全を自分たちで守る力。世界の中の日本として他国を理解しようとする意欲。 ・人のために自分ができることを考え、実行する力。
効　果	・全校児童の健康で安全な生活のために、委員会活動としてできることを具体化し、実行していく姿が増えた。 ・国際理解を図る活動を通して、その大切さを感じることができた。奉仕に関わり、人にどのように関わることが大切なのかを考える姿が増えた。
今後の方向	・来年度も、同様に健康安全・奉仕・国際理解について理解を深め、行動する力を付けるために取り組んでいきたい。

３　各務原市立那加第二小学校

学　校　名	各務原市立那加第二小学校　（校長　丹羽　直正）
活動の種類･単位	絆を深めるボランティア活動・全校児童
教育課程上の位置付け	家庭・休み時間

１　活動テーマ　　助け合いながら絆を深める生き方づくりの実践（ボランティア活動）

２　主な活動内容

豊かな心を育てていくためには、学校だけではなく、家庭や地域との連携が必要となる。市教育委員会が発行しているボランティア手帳を積極的に活用し、家庭にもお願いし、助け合いながら絆を深める生き方づくりができるようにした。

（１）ボランティア活動の啓発

家庭との連携をしつつ、助け合いながら絆を深める生き方づくりを推進するために、挨拶やボランティア活動を行っていくことを校長が学校経営方針として示した。それを受けて、生徒指導主事が中心となって、ボランティア活動の啓発を全校的にしていった。

生徒指導主事は、ボランティア手帳が１冊終了した児童をお昼の放送で紹介し、ボランティア活動５０回たち成者にたち成シールをプレゼントした。このたち成シールは子どもたちから図案を公募し、児童における投票によって作成する。子どもたちはシールがもらえることもあり、意欲的に取り組むことができた。また、職員室前に掲示しているボランティア桜にたち成者の名前シールを貼ることで全校児童に啓発していった。

▲　6年生による主体的なボランティア

（２）６年生による主体的なボランティア

６年生児童は、全校児童が気持ちよく学校で生活できるように各自が主体的にボランティアの内容を考え、１年生のお世話、校庭の落ち葉掃除や草抜き、校舎内の清掃等のボランティア活動に取り組んだ。下級生は、その６年生の姿を見て、憧れをもち、自分も誰かのために行動したり働こうとしたりする心を育てたりすることにつながった。

（３）家庭でのボランティア活動内容

子どもたちはボランティアとして、風呂掃除、料理などの家庭でのお手伝いや公園や道路の掃除や草抜き、落ち葉拾い等を行った。

（４）ボランティア活動の振り返り

ボランティア手帳には、児童がボランティアをした感想や保護者が児童に対してメッセージを書いている。児童は振り返りをすることで、自己のよさの自覚をすることができた。

○　近所の公園で、たばこの吸い殻が落ちていたので、拾ってきれいにしてくれてありがとう。進んでやってくれて、すごいね。　＜1年生母＞

○　私が仕事の時に、おばあちゃんの家で訪問入浴のお手伝いをしたそうで、みんな喜んでいたそうです。ありがとう。　＜2年生母＞

○　お母さんの大変さがよく分かりました。お母さんに「ありがとう」と言ってもらえて、うれしかったです。＜6年生児童＞

子供たちに付いた力	･6年生は下級生のことを考えた思いやりの心が育ってきた。また、全校児童におけるボランティア活動は家族のために働くことで、家族愛の心が醸成された。
効 果	･6年生は最高学年としての自覚が高まり、下級生から尊敬される存在となった。 ･全校児童は誰かのために汗を流す喜びを味わうことができ、自己のよさを自覚できる児童が増えた。
今後の方向	･コロナ禍の折、地域でのボランティア活動はやや少ないと感じたが、その分家庭での手伝いが増えてきた。来年度以降も、助け合って絆を深める喜びを実感させたい。

４　瑞穂市立中小学校

学　校　名	瑞穂市立中小学校　　（校長　　関谷　典久）
活動の種類・単位	奉仕　（福祉）
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

１ 活動テーマ　私たちが地域にできることは～高齢者宅訪問・防災教室～

２ 主な活動内容

①６年生が一人暮らしの高齢者を訪問し、心を込めてプレゼントすることを通して～コロナ禍で生まれた新たなふれあいの創造～

地域で一人暮らしをしている高齢者宅を自治会長さんと一緒に訪問し、心を込めて書いた手紙とプレゼントを渡し、高齢者との交流を行った。

【本活動に至るまでの経緯】

昨年度、６年生の総合的な学習で実施した「中小サロン」（地域の高齢者の方とのふれあいサロン）を今年も実施したいと児童たちは考えていた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大のため、今年度は実施出来ないこととなった。児童たちは、「何らかの形で高齢者の方と交流したい」「コロナ禍であるからこそ、特に一人暮らしの高齢者の方と関わる必要があるのではないか」と考えた。そこで、担任が、瑞穂市社会福祉協議会・自治会・民生委員さんに相談をかけたところ、児童たちのサポートしてくれることとなった。

活動当日は、児童たちが３つの班に分かれ、各地域の自治会長さんのサポートの元、地域の一人暮らしの高齢者宅を訪問し、感染症対策を取りながら、手紙とプレゼントを贈り、交流を図った。

▲「一人暮らしの高齢者宅訪問」をする6年生

②もしもに備える防災教室～コロナ禍であっても、自分たちでできる防災とは～

もしものときに自ら動ける自分になるため、「防災に対する知識」と「地域の一員としての自覚」を高めるための防災教室を行った。

【開催に至るまでの経緯】

６年の児童たちは、高齢者の方との交流を通して、コロナ禍であるからこそ、「自分たちにできること」をさらに突き詰めた。そして、『今まで以上に地域と共にありたい』、『地域の力になりたい』という思いが高まってきた。そこで、地域の一員として災害時、少しでも地域の力になれるように、学校で災害が発生した際の対処方法を学ぶ「防災教室」を設けた。また、自治会主催の避難所開設訓練などに６年生児童が参加し、学校と地域が一体となった「防災教育」を進めている。

▲「防災教室」で市の職員から説明を受ける6年生

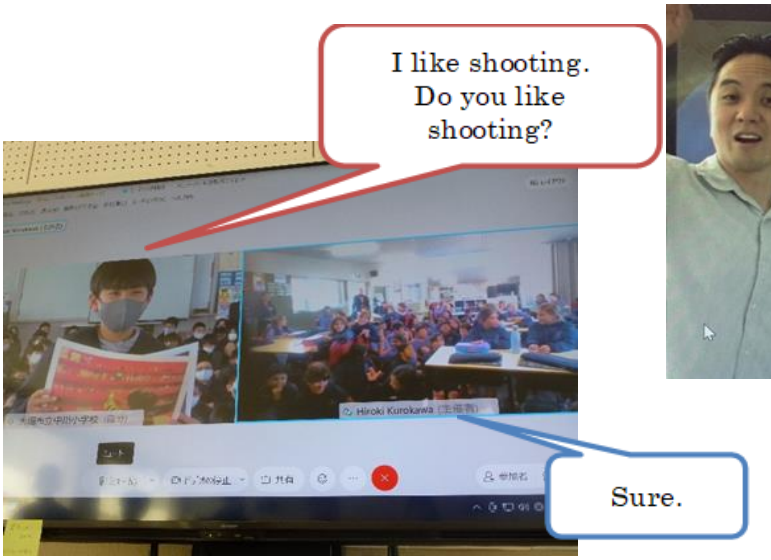
子供たちに付いた力	・次の5つの力が育った。 ア　福祉に対する関心・意欲・態度　イ　情報活用能力　ウ　問題解決能力　エ　表現力　オ　総合的な思考力・判断力
効　果	・社会(地域)の一員として、自分たちのできることは何か考え、強い願いのもと、地域に自分たちの思いを発信し、行動していく力につながった。
今後の方向	・年度の活動を継続し、児童自ら考え、行動することで学校や地域にとって、よりよい活動を創造していく心を育てていく。

５　大垣市立中川小学校

学　校　名	大垣市立中川小学校（校長　福井　康弘）
活動の種類･単位	国際理解・親善について全校で取り組んだ
教育課程上の位置付け	教科、総合的な学習の時間

１ 活動テーマ　　英語でのコミュニケーション力を伸ばし、国際社会で活躍できる児童の育成
～英語教育と国際理解教育を通して～

２ 主な活動内容



▲ 姉妹校であるオーストラリアのコーフィールド小学校の児童との交

▲ モジュール学習の様子：日本と世界

・休校期間中の英語の勉強や FUNTIME で英語講師によるビデオ講座を行う。
・オーストラリアの姉妹校との交流活動や、外国の文化・習慣・遊びなどを体験する講座を行い、国際理解を深める
・英語科・英語活動及び英語のモジュール学習で、生活科や総合的な学習、行事等とのつながりを生かした教材を開発し、コミュニケーション力を高める授業を実践する。

子供たちに付いた力	・コーフィールド小学校の児童との交流を通して、オーストラリアの文化はどのようになっているのか進んで調べ、理解した上で、日本のどんなことを伝え、どんな質問をしようか考えることができた。（他者理解） ・モジュール学習では、日本にはない外国特有のイベントを知り、自主学習でさらに調べる姿や日本にも定着しつつある「クリスマス」や「ハロウィン」だが、内容が国によって違うことを理解することができた。そして、「もっと外国の文化について学んでみたい」「そんな考えもあるのだな」という思いをもつことができた。
効 果	・各クラスに在籍している外国籍の児童に対して、偏見をもたず、どんな言語で文化があるのか積極的に聞く姿が見られた。 ・外国の文化を知ることで、日本の文化のよさを再確認し、大切にしていこうとする姿が見られた。 ・外国のよさを知り、諸外国の文化や生活様式を調べることに対して、意欲･関心を高めることができた。
今後の方向	・多くの成果が上げられたので、来年度も引き続き行っていきたい。 ・SDGsが今話題となっているので、国際理解の面で、文化などについて知るだけでなく、世界の諸事情について知ることを通して、自分たちができることを考えたり、世界のために活動している人たちについて学んだりすることができるようにしたい。

６　養基小学校養基保育所組合立養基小学校

学　校　名	養基小学校養基保育所組合立養基小学校　（校長　西川　敏克）
活動の種類･単位	健康安全
教育課程上の位置付け	その他（朝の活動など）

１ 活動テーマ

自他の生命や心を大切にする児童の育成

２ 主な活動内容

（１）　生命や健康を大切にする活動

①　命を守る訓練

年間６回の命を守る訓練を実施した。特に今年度は、購入したさすまたを用いて不審者対応危機管理を充実させた。揖斐警察署署員によるさすまたの取り扱い指導を受け、全職員がさすまたを使った不審者の取り押さえに慣れることができた。また、揖斐警察署署員に不審者役をお願いし、不審者対応命を守る訓練も実施した。命を守る訓練は回数を重ねるにつれ、想定や環境を変えて、子どもたちがどんな状況にも柔軟に対応できるようにした。

▲訓練当日の様子

②　新型コロナウイルス感染予防対策

手洗い、マスクの着用、手指消毒など、基本的な感染予防対策について、養護教諭の指導のもと、保健安全委員会が全校に啓発活動を行った。

③　コロナハラスメント予防対策

文部科学省主催「新型コロナウイルス“差別・偏見をなくそう”プロジェクト」の教材を使用し、児童や保護者、地域住民への啓発を行った。感染症そのものへの不安や恐れが差別や偏見を生むという仕組みを知り、感染症予防対策を粘り強く継続することの大切さとともに、周りの人への優しさや思いやりの気持ちを持つことの重要性を継続的に説いた。

▲差別や偏見をなくす授業

（２）　全校による常時活動

①　アルミ缶回収

毎月１週間設定の「アルミ缶・ベルマーク週間」には、全校児童が家庭からアルミ缶を持ち寄り、回収箱に入れる。JRC 委員が回収呼びかけや回収箱の管理を行う。年度末には、池田町と揖斐川町の社会福祉協議会へ収益金の一部を寄付し、福祉活動に役立てていただいている。

②　独居老人への配達弁当の掛紙作成

養基公民館の主催事業「まごころ弁当」（独居老人への配達弁当）の掛紙を作成している。養基小学校の旬のニュースをお伝えしつつ、独居老人の方の健康や安全を祈念する内容の掛紙をお弁当にかけていただき、地域の高齢者の方々に喜ばれている。

子供たちに付いた力	・自分の命は自分で守ることはもちろん、危機発生時には仲間とともに、最善の判断をして、自他の心や体を守る行動がとれる力
効 果	・様々な状況を想定した訓練を実施することにより、自分の命は自分で守る意識が高まった。感染予防対策の充実とともに、ハラスメント予防についての意識も向上した。
今後の方向	・さらに多様な危機を想定し、柔軟に対応できる力を育む。どんな時も、様々な立場の方の考え方や行動に思いを寄せる心を育てる。

７　大野町立大野小学校

学　校　名	大野町立大野小学校　　（　校長　　桑原　浩美　）
活動の種類･単位	安全な生活をおくるための手段と救急処置について学んだ。
教育課程上の位置付け	集会活動　及び　体育（保健）授業

１ 活動テーマ

「夢をもち、豊かに生きる児童の育成」

～　安心・安全な生活について考え、互いに支え合うための活動を通して　～

学校の教育目標「夢をもち　豊かに生きる子」のもと、願う児童の姿「考える子　やさしい子　きたえる子」を合言葉に、その達成に向けて、児童は自分も仲間の命も大切にできるように、家庭・地域の方々との連携、協力のもと、様々な活動を位置付け、推進している。

２ 活動内容

※　コロナ禍の影響で、諸活動がソーシャルディスタンスを伴う活動に限られ、活動内容に制約を受けた。JRC 活動も例外ではなく「キックオフの会」「救急処置に関する学習」等においても、「３密」を避けての活動とするなど、様々な制約を受ける中での活動となった。

▲掃除時間における訓練

（１）キックオフの会

「キックオフの会」は、春からの「コロナウイルス感染症防止」のため、「３密」を避ける予防処置として、全校集会の開催を見合わせていたため、朝活動の時間を利用して、全校放送にて実施した。

（２）命を守る訓練

「想定外」を減らすための「命を守る訓練」を、年１０回実施している。子どもたちの「自分の命は自分で守る」という意識を継続するために、毎回設定を変えて「授業中」「休み時間」「掃除時間」等様々な時間に取り組んだ。今年度は、全校で避難することが制約を受けたため、学年ごとに実施した。

実施後には、学級ごとの「振り返り（反省）」の時間を設定しているが、今年度は「防災教育プログラム」を活用した「振り返り」を行うことで、「身の回りにある危険」について考える時間をもった。共通する内容については放送にて説明した。

▲けが人の搬送訓練

（３）救急処置の練習

高学年の「体育（保健）」の授業時間を使って「救急処置」を学んだ。「三角巾」の使用方法について、養護教諭から説明を受け、２人一組で三角巾を使用し、実際の怪我を想定した「止血方法」「骨折への対応」等の応急処置の仕方を学んだ。また同時に、「毛布」を用いた「保温の仕方」や「搬送」についての説明を受け、「万が一」の場面を想定して学習に臨むことができた。

その際、「赤十字救急法指導員」の資格をもつ先生にもご協力をいただくことで、より実践的な方法を学ぶことができた。

▲三角巾を使って

子供たちに付いた力	・「自分の命は自分で守る」意識が向上し、皆が安全な社会生活を営むために、自分(たち)に出来ることを考える力が付いた。
効 果	・実際の「もの」を用いて救急救命学習に取り組むことができ、「万が一」の際における対応を知ることができた。
今後の方向	・コロナ禍の影響により、様々な活動に制約を受けたが、次年度以降も「自分の命は自分で守る」意識の定着と「相手意識をもったボランティア精神」の育成を図ることができるように取り組んでいきたい。

８　関市立金竜小学校

学　校　名	関市立金竜小学校　（校長　横田　稔）
活動の種類･単位	防災教育　・　５年生
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

１ 活動テーマ

守ろう自分の命、守ろうみんなの命

～防災教育を通した、自助、共助の力を身に付ける防災キッズをめざして～

２ 主な活動内容

（１）見通す力を高める調べ学習

５年生児童は、大きな地震災害を経験していない。東日本大震災も、その時点では被害の大きさや恐ろしさを知らない。児童が、震災について興味関心をもち、願いをもって課題をたて、具体的な解決方法を考えながら見通しがもてるよう、まずは、日本や岐阜県の震災や様々な自然災害を調べた。それによって、岐阜県ではどのような防災をしているだろう、家庭や地域ではどのような防災が必要だろう、という課題につなげていくことができた。

（２）追究する力を育てる協同的活動

自分の命を守るためには、身の回りの危険を知っておくことが必須となる。そこで、地域の安全マップ作りを計画。実際に地域を回って危険個所を調べるフィールドワークを行った。日頃児童が気付かない危険個所をも知ることができた。また、校内に設置されている防災倉庫内を見学し、防災への関心や意識を高めることができた。

▲防災倉庫の見学

（３）表現する力を高める発信活動

フィールドワークや学校で調べたことを、安全マップにまとめ、学年の他の児童や下級生に伝える会を設けた。自分たちで撮影した写真を貼ったり、説明を書いたりして安全マップをまとめ、伝えることを通して、自分たちが住む地域でできる防災は何かを考えるきっかけとなり、防災や減災について積極的に周りの人たちに働きかけることができた。

▲安全マップ

子供たちに付いた力	・防災教育を行うことで、児童はより地域を知ることができ、一番の目的である防災についての意識を高めることができた。
効 果	・フィールドワークや調べ学習を通して、自分たちの目で確かめ、実感し、写真で記録に残したり、人に伝えたりすることで、学びを深めることができた。
今後の方向	・今までの学習を生かし、震災や災害に遭遇した時、児童自身が判断し、危険を回避する行動をとることができ、自分の命を、そして周りの人の命も守ることができるように更に進めていきたい。 ・今後は、地域の防災士の方たちと連携しながら、地域の防災についても深めていきたいと考えている。

９　美濃加茂市立山之上小学校

学　校　名	美濃加茂市立山之上小学校（校長　長尾　渉）
活動の種類･単位	自他の健康安全、命を守るための行動
教育課程上の位置付け	特別活動

１ 活動テーマ

自他の命を守るための感染症対策や心身ともに健康で過ごすために人権について考える活動を通して、自分にできることを考え、実行しようとする自律的な心情を育む。

２ 主な活動内容

（１）学校再開後、学校生活を安心、安全に過ごすために、各学級で感染症対策や新型コロナ感染症についての差別をしないために大切にする思いを考えた。そして、全校放送で各学級が取組内容を含んだひびきあい宣言を行い、キックオフの会とした。

▲下校時の児童会長の話　活動内容(2)

（２）９月に児童会の中で、今の学校の感染症対策等の成果と課題を考え、児童会長が全校児童に伝えることで、各学級で取組についての振り返りを行った。

（３）１２月にひびきあい集会（全校放送）を開き、各学級が人権についての視点で学級を見つめ直すとともに、学級の取組の成果と課題について中間振り返りと今後の方向性について全校放送で全校に伝えた。また、児童会からは、半年間の学校の成果と課題を全校に伝え、残りの３カ月の学校生活の願いを全校に伝えた。

ひびき合い集会での児童会長の話

「今年の山之上小学校の児童会スローガンは、“仲間と共に～元気な子、やさしい子、頑張る子～”です。今年はコロナウイルスの影響で、いろいろな行動が制限されたり、行事が無くなったりしてみなさんが窮屈な思いをしたことも多かったと思います。しかし、一つ一つの行動に思いやりの心を込め仲間と共に活動したことで、明るく、笑顔の学校につながってきました。今回、各学級でひびき合い宣言の今の成果と課題を振り返りどう思いましたか。成果はこれからも磨き続け、課題はよりよくする努力をしていきましょう。この学年で過ごすのも残り４カ月となりました。最後にみんなで笑顔で終われるように一人一人が考えて行動していきましょう。」

子供たちに付いた力	･新しい生活様式を意識し、自他の健康のために行動する力。 ･目標を設定し、自己や学級、学校を見つめ、どうすべきかを考え、実行する中で、課題解決に向け活動する力。
効 果	･どの学年の児童も、授業や休み時間の生活が感染症対策を大切にした行動になっている。 ･休み時間等で課題となる場面があれば、解決策を考え、行動しようとしている。
今後の方向	･12月に各学級で出た課題に対して継続的に取り組み、2月のひびき合い集会のまとめの場で成果や成長について交流する。 ･来年度も新型コロナウイルスを意識した生活になることが考えられるので、活動を継続して行っていく。

１０　七宗町立神渕小学校

学　校　名	加茂郡七宗町立神渕小学校（校長　木村　正男）
活動の種類･単位	健康・安全
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

１ 活動テーマ

自分の命や健康を自分で守ることができる子の育成　　～健康管理能力の向上を目指して～

２ 学校紹介

本校は、長年整備されてきた森林とホタルが生息する清らかな神渕川等、豊かな自然に恵まれた七宗町にある。温かい神渕地区の人々に支えられ、子どもたちは明るく楽しく学校生活を送っている。学校の教育目標『豊かな心をもち自ら考え　進んでやりぬく子』のもと、総合的な学習の時間「みはぎタイム」では、地域の人々と連携しながら、ふるさと神渕のすばらしさやそこに暮らす人々の思いに触れ、自然や人とかかわる活動を積極的に行ってきた。

３ 活動内容

（1）委員会による手洗い・消毒、うがいの奨励（全校）

保健給食委員会の提案により、全校に手洗いや消毒、うがいの必要性を伝える活動を行った。

はじめに、保健給食委員の子が手洗いチェッカーローションを手につけ、普段通りの生活を半日行った上で、ローションがどこについているかを調べた。その結果を写真に撮って、各教室に呼びかけに行った。

▲保健給食委員会からの働きかけ

半日の生活でもありとあらゆるところにローションが付着していることから、手洗いや消毒、うがいが大切であることがわかり、注意を受ける前に自分たちで進んで行う姿が多く見られた。

（2）熱中症と新型コロナウイルス感染症に対応した運動会の取組（全校）

１０月に開催できることになった運動会に向けて、熱中症と感染予防対策の両方が必要になった。そこで、子どもたちには、熱中症の危険度を意識できるよう掲示板にWGBT値を書いて示した。また、体育の授業の際にも測定器を使うことで、先生も子どもたちも意識できるようになった。

（3）サンホーム七宗とのリモート交流（全校）

毎年訪問をしていた地域の高齢者福祉施設「サンホーム七宗」に今年は訪問することができなかった。そこで、理科や生活科などの学習で育てた花や野菜を届けたり、ビデオレターや手紙でメッセージを届けたりしてリモートでの交流をした。花や野菜を届ける際に添えた手紙には、「コロナにかからないように気をつけてください」「えいようをとって元気でいてください」などと利用者の方に思いを馳せたメッセージをつけた。離れていても、訪問できなくても、元気を届けようという気持ちをもって、サンホーム七宗のみなさんとつながることができた。

▲サンホーム七宗へのお届け物

子供たちに付いた力	・コロナ禍によって活動が制限された１年間であったが、熱中症や感染症予防の意識を子どもたち自身がより強くもつことができた。また、リモート交流によって高齢者への思いやりの心を育むことができた。
効 果	・自分の体や行動に目を向け、状況に合わせて必要な対策を考え、自分の命や健康を自分で守ることができた。
今後の方向	・委員会活動での呼びかけや視覚や数値で危険度がわかる工夫によって健康管理への意識が高まり、教師からの注意喚起だけでなく、自分たちで気づき、考えて行動する姿が多くみられるようになった。今後も継続したい。

１１　白川町立黒川小学校学校

学　校　名	白川町立黒川小学校　　（校長　纐纈　眞彦）
活動の種類･単位	地域と連携し、「防災学習」や「ふるさと学習」に取り組んだ。
教育課程上の位置付け	総合的な学習　特別活動

１ 活動テーマ

命を大切にし、ふるさとを愛する心を育む

２ 主な活動内容

（1）「防災教育」の推進

修学旅行の代替として、「防災キャンプ」を実施した。体育館に６年生が１人１張り防災テントを建て、新型コロナの感染予防を徹底する中で宿泊した。「防災教室」として、薪割、火起こし、羽釜でのご飯炊き、間伐材のコンロ・一斗缶のストーブづくり、教室の窓ガラスの飛散防止フィルムはり等の体験を行った。自分たちで薪を割り、割った薪でご飯を炊き、１１月の肌寒い夜間の活動に備えて、一斗缶のストーブをつくって暖をとるようにしたことにより、いざという時にも自分たちでできることがあるという自信をもつことができた。また、各教室と廊下の間にある天窓のガラスに飛散防止フィルムを貼り、大地震に備えるようにした。６年生の卒業活動として、他の学年のガラスにも張っていく。この他にも、保護者や地域の支援の下、バーチャル修学旅行、茶華道体験、カローリングなども行い、６年生にとって思い出となる活動となった。

▲防災テントで宿泊する6年生

▲ガラス飛散防止フィルム貼り体験

(2)「ふるさと学習」の推進

東小・中小・西小の３校が統合して黒川小学校となって、今年度５０周年を迎えた。その記念として、ふるさと黒川のよさを再確認し、「たからもの手ぬぐい」として、全世帯に配布する計画を立てた。

高学年で実行委員会を組織し、黒川の宝物調査→宝物のイラスト募集→イラストを選ぶ→イラストを入れて手ぬぐいの図柄を作成→手ぬぐいの図柄決定→手ぬぐい発注の手順で作製を進めてきた。全校児童が選んだ黒川の宝物は、自然豊かな山と川、白川茶、歌舞伎、パイプオルガン、黒川の祭り（花火・箱岩太鼓）などであり、ふるさと黒川にはたくさんの宝物があることを子供たちが再認識することができた。また、黒川地区全世帯に手ぬぐいを配布することにより、黒川を大切にしたいという思いを発信することができた。

▲くろかわのたからもの手ぬぐい

子供たちに付いた力	・地震等の災害に備えて準備することの大切さを学び、いざという時に自分たちで命を守り助け合おうとする意識が高まった。また、ふるさと黒川のよさを再確認し、地域に向けて発信することができた。
効 果	・地域の方の支援を受けて防災学習・ふるさと学習を進めたことにより、命を大切にし、ふるさとを大切にしたいという意識が高まった。
今後の方向	・今年度設立された黒川地区地域学校活動協働活動本部～くろかわ地育リーダーズ～との連携をさらに密にし、命を大切にし、ふるさとを愛する心を育んでいきたい。

１２　土岐市立濃南小学校学校

学　校　名	土岐市立濃南小学校　（ 校長　本多　直也 ）
活動の種類･単位	健康・安全を、栄養教諭と連携して全校で取り組んだ。
教育課程上の位置付け	道徳、特別活動、教科（家庭科・社会科・保健体育科）

１ 活動テーマ

食の重要性を理解し、豊かな心と健康な体つくりに意欲のもてる子の育成
～栄養教諭とのコラボ授業を通して～

２ 主な活動内容

(1)栄養教諭による給食訪問指導

◇「おいしいきゅうしょくができるまで〈１年生〉」

年に一度、給食時に栄養教諭が各学級を訪問し、発達段階に応じて給食指導を行っている。初めて学校給食を経験する１年生児童にとって、これから９年間毎日食べる給食が、どのように作られて学校まで運ばれてくるかを知る良い機会となった。栄養教諭は、給食センターでの作業工程を写真や映像を見せながら説明したり、実際に使われているスパテラやすくい網を児童に持たせて作業を体感させたりした。また、ゴムホースを使って窯の大きさを示したり、どんな思いで調理員が給食を作っているかを紹介したりすることで、感謝の気持ちを忘れず給食を食べることへの気付きにつながった。

▲道具を持って疑似体験する児童

(2)教科等の授業における栄養教諭とのコラボ授業

◇「大豆パワーを知ってるかい？〈３年生〉」

～国語『すがたをかえる大豆』とのコラボ授業～

国語『すがたをかえる大豆』の学習に合わせ、栄養教諭から大豆について学んだ。ほんの小さな大豆ではあるが、摂取することで、血・筋肉・骨・歯など体のもとをつくり出すことを知った。また、「大豆を煎ってすりつぶすときな粉になる」「小さな生物の力を借りると味噌や納豆になる」など、様々な手を加えることで大豆が身近な食品に生まれ変わり、栄養価も変わることも学んだ。この学習を機に「牛乳は何に生まれ変わるのだろう」「小麦は何に変身するのかな」など、他の食材にも興味の幅が広がった。

▲大豆畑の写真を提示する栄養教諭

◇「目指せ、ベスト食育マイスター！ 献立作りのコツとワザをつかもう」

～６年生　家庭科『給食の献立を考えよう』とのコラボ授業～

６年生には、県から「家庭の食育マイスター」が委嘱され、食に関する正しい知識と望ましい食習慣等について学習している。その学習の一環として、土岐市学校給食センターが募集する「ぼくのわたしの考えた学校給食～学校給食献立募集～」に応募している。栄養教諭は家庭科の授業に参加し、献立作成時の“ワザ”や“コツ”を伝えた。児童は、旬の食材を取り入れることの良さや、学校給食に地元の食材が使われていることを知るよい機会にもなった。

子供たちに付いた力	・食の重要性を理解することができた。また、豊かな心と健康な体つくりに意欲をもつことができた。
効 果	・栄養教諭の専門性を生かことで、児童に対してきめ細かな指導をすることができた。 ・役割分担をすることで、効果的な指導をすることができた。
今後の方向	・来年度以降も、食の重要性を理解し、豊かな心と健康な体つくりに意欲のもてる子の育成を目指し、栄養教諭を中核とした食育の在り方を探っていく。

１３　中津川市立西小学校学校

学　校　名	中津川市立西小学校　（校長　小木曽　誠）
活動の種類･単位	4 年生が高齢者福祉の活動に取り組み、児童会が中心となって全校児童で奉仕活動を行った。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間・特別活動

1 活動テーマ

主体的に地域とかかわり、地域福祉に貢献できる子をめざして

2 主な活動内容

（1）〈福祉活動～高齢者の方々との交流を深める～〉

4 年生は、総合的な学習の時間に、認知症サポーター講座を受講したり高齢者疑似体験に取り組んだりして高齢者福祉について学んだ。高齢者の方々の不便さやたいへんさを知ることで、身近にいるお年寄りの方々への接し方や自分たちにできることについて考えることができた。

当初の計画では、学んだり考えたりしたことを生かして、校区のグループホームや高齢者施設を訪ね、地域のお年寄りの方々との交流活動を予定していたが、コロナ禍のため、訪問は中止となった。今年度は、それに代わる活動として、お年寄りのみなさんに喜んでもらえるカレンダー等を作ってメッセージを添えてプレゼントすることにした。現在、制作中である。

▲高齢者疑似体験

（2）〈奉仕活動～アルミ缶回収を通して地域に貢献する～〉

児童会を中心に、自分たちができる地域貢献の方法を考え、昨年度から毎月第２・第４水曜日の朝、アルミ缶回収を始めた。昨年は募金活動も行ったが、小学生の自分たちの力でできる活動として、アルミ缶回収を続けていくことにした。児童会のメンバーが、全校児童に放送やチラシで呼びかけ、登校時に持ってきてもらったアルミ缶を運動場で回収している。児童会で集まったアルミ缶の個数を記録し、お昼の放送でお知らせしている。貯まった収益金は、中津川市福祉協議会に寄付をする。

▲アルミ缶の回収

また、毎朝、児童会や代議員が通学路や児童玄関付近に立ってあいさつ運動を行っている。あいさつを通して、西小学校内だけでなく、地域の方々との交流も深めていっている。

▲あいさつ運動

子供たちに付いた力	・自分たちが少しでも地域の方々のためにできることはないか考え、計画し、実行していく力が付いた。相手の立場になって考え、行動しようとする態度を養うことができた。
効 果	・周りの人に感謝の気持ちをもち、それを進んで言葉で伝えたり、相手の気持ちを考えて行動したりする児童が増え、それが自己肯定感を高め、学校全体の落ち着きにつながった。
今後の方向	・来年度も今年度の活動を続けていく。

１４　中津川市立加子母小学校

学　校　名	中津川市立加子母小学校（校長　坂田　浩一）
活動の種類･単位	健康と安全、奉仕、国際理解をテーマに全校児童と地域で取り組んだ
教育課程上の位置付け	特別活動（命を守る訓練）、総合的な学習の時間、児童会活動

１ 活動テーマ

「考える　つながる　挑戦」する児童の育成」

２ 主な活動内容

（1）地域ぐるみの不審者訓練（健康と安全）と歯科指導

〇地域ぐるみの不審者訓練　　１１月１６日（月）実施

＜訓練内容＞

・不審者侵入により児童は、各自の判断で体育館研修室に逃げ込む。学校から市役所出先機関へ不審者侵入の電話をすると防災無線で村内に不審者侵入のアナウンスが流れ、地域の協力者が棒やさすまたを持って小学校へかけつける。そして職員と一緒に不審者に対応する訓練を行った。

▲地域の方と協力して犯人確保

〇校医さんと連携した歯科指導　　１１月１８日・２０日

・歯みがきの大切さを校医さんが実験を通して啓発をした。その結果、日頃の歯みがきの改善にもつながり歯の状態もよくなった。

▲校医さんによる歯科指導

（2）委員会主催の奉仕活動

〇９月１４日～１８日の昼休み実施

・生活向上委員会の呼びかけで、校庭の草取りの奉仕活動を実施。高学年と低学年が一緒になって草を抜く姿が多数見られた。一週間の間に全児童が自主的に参加できた。

▲高学年と低学年が協力して草取り

（3）定住外国人高校生とのオンライオンを使った英語の交流

〇10月14日･15日に東濃高等学校国際クラスの生徒と交流

・本校児童は、加子母小学校の特色（ゆるキャラ「かしもん」や半円形の校舎など）や、加子母の産業（トマト、檜、飛騨牛など）について英語で紹介した。東濃高校の生徒は自分の特技や好きなことについて英語で紹介した。質疑応答も英語で行った。

▲定住外国人の生徒との交流

子供たちに付いた力	・自分の命や健康をを自分で守ろうとする意識が醸成された。 ・人の役に立つことの喜びや他国の人と関わることの大切さを実感した。
効 果	・健康と安全、奉仕、国際理解の3つの視点で、さらに自分たちの活動を新たに生み出していく事ができる。
今後の方向	・へき地校の小規模校であるため、限られた人間関係で生活している。他校の児童や生徒とオンラインで関わることで、コミュニケーション能力の育成も今後期待できる。

１５　高山市立山王小学校

学　校　名	高山市立山王小学校　（校長　清水　英彦）
活動の種類･単位	健康・安全に対する意識を高める活動を全校で行った。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間・生活科

１ 活動テーマ

自分で考え、自分のからだ･生活を守る

２ 主な活動内容

（１） 交通安全教室（１年生　道路歩行）

正しい道路歩行、横断の仕方、信号のきまりなど、歩行を中心とした交通安全教室を行った。事前に交通ルールのビデオの鑑賞、担任による基本的な交通ルールの指導後、実際に学校周辺を少人数で歩行し、体験を通して適切な歩行の仕方を学習した。児童は、交通事故などが身近に潜んでいることを知り、命を守るために、安全に歩行することの大切さを改めて感じることができた。

▲道路での歩行練習の様子

（２） 睡眠調査・眠育

全校を対象とした睡眠調査や、４・５・６年生を対象にした講師による睡眠教育を行った。睡眠調査は学年に応じた期間で行い、寝た時間を毎日チェックし、不規則な生活になっていないか自分の生活を見直した。睡眠教育では、睡眠が体にどう影響しているのかなど、睡眠の大切さを知り、生活習慣を見直してよりよい学校生活を過ごそうという意識を高めた。

（３） 歯みがき指導

新型コロナウイルス感染防止のため、例年のような指導は行えなかったが、長期休みを利用して「はみがきカレンダー」の取り組みを行った。歯みがきをしたら色を塗り、毎日の歯みがきを習慣付けていく。カレンダーには振り返りを書く欄と、保護者からのコメント欄があり、学校だけでなく家庭でも歯みがきの指導を徹底した。

（４） 新型コロナウイルス感染防止対策

新型コロナウイルス感染により、例年にはない対応に迫られたが、全職員、全校児童でその対策に務めた。本校では以下のことに特に徹底して取り組んだ。

・職員、児童の毎朝の検温、健康チェック。また、その記録を行う。
・児童玄関での職員による健康チェック、消毒の徹底
・換気の徹底　・給食時の黙食　・学習時に対面にならない
・手洗い、マスク着用の徹底　・ソーシャルディスタンスの徹底

子供たちに付いた力	・学校と家庭との連携を通して生活習慣を見直すことで、基本的な生活習慣を身に付けることができた。 ・自分の命を守るために、ルールを守ることの大切さを理解することができた。 ・どのような状況でも、適切に対応する力を高めることができた。
効 果	・ルールを守り、安全に歩行することができた。 ・歯みがきを習慣化する児童や、生活リズムを見直し、改善する児童が増えた。 ・自分たちにできることはなにかを考え、徹底して取り組むことができた。
今後の方向	・自分の健康や安全のために、学校だけにとどまらず、家庭や地域との連携を通して互いに意識を高めていけるよう、工夫した活動を行っていきたいと考える。

１６　高山市立国府小学校

学　校　名	高山市立国府小学校　（校長　清水　明彦）
活動の種類･単位	健康・安全：防災を学び、自分たちにできることを考える（４年生）
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

１ 活動テーマ

みんながともに生きる国府町をつくろう
～福祉や防災を学ぶことをとおして地域とつながり、わたしたちにできることを考える～

２ 主な活動内容

（1）防災講話（7月28日）東日本大震災を経験された方のお話

被災された方から津波発生時の状況及び防災の重要性について、丁寧に話していただいた。

＜防災講話の内容の一部＞

・どのように逃げるのか、ほんの数秒の判断で、生死を分けた結果になった。津波によって、家や自動車が流された。

・もしかしたら災害が起きるかもしれないと考えることが大切である。水や食べ物を備蓄したり、テレビや棚などを固定したりするなど今できることをやってほしい。

▲津波発生時の状況を聞く児童

・防災の話を聞いて、ひなんする場所は覚えておきたいし、ハザードマップでも気を付けなければならないことが分かりました。そして、いつまでも津波で大きなひがいがあったという出来事を頭の中に残しておきたいです。（児童の感想）

▲ｸﾞﾙｰﾌﾟで危険場所の交流

（2）防災教室（9月10日）国府町でもし災害がおきたら・・・

国府町まちづくり協議会の協力を得て実施した。地震や風水害等が起きた時に、学校や家の周りでどのような危険が潜んでいるか考えた。あらかじめ、家庭で話し合ってきたことを基に、具体的に危険な場所やどうなることが予想されるか交流した。学校の周りにも、土砂災害の可能性がある場所や、過去に被害を受けた場所もあることが分かり、児童は改めて災害に備えなければいけないと考えることができた。

その後、携帯用のアルミブランケットや緊急用に使用する笛など防災グッズについての説明を受けたのち、防災グッズの贈呈があった。

▲ｸﾞﾙｰﾌﾟごとに発表し、学び合う

・防災教室で防災に対する意識が上がったし、グループで危ないところを出し合った時も、たくさんの危険がありました。今日真剣に考えて、命より上の価値はないと思ったし、まず自分自身を守ることが大事だと分かりとても勉強になりました。（児童の感想）

子供たちに付いた力	・災害の恐ろしさを知るとともに、防災は他人ごとではなく、自分のこととして考えていこうとする意識
効 果	・災害時に、学校や家の周りには危険な場所があることを具体的に確認することができた。 ・備蓄や家具・電化製品等を安定して置くようにすることなど、今できる防災があることが分かった。
今後の方向	・新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染防止のため、予定していた「非常食づくり」等ができなかった。来年度も、4年生の総合的な学習の時間のテーマを「福祉・防災」としてより充実させたい。

１７　下呂市立尾崎小学校

学　校　名	下呂市立尾崎小学校　　（校長　久冨　雅仁）
活動の種類･単位	地域や保護者とのつながりを大切にした「ふるさと学習」を中心とした、キャリア教育、地域活動を行った。
教育課程上の位置付け	生活科、総合的な学習の時間

1 活動テーマ

地域や保護者とのつながりを大切にしたコミュニティ･スクールの運営

2 主な活動内容

＜１・２年生＞

保護者の方（地域の方）を講師に招き、畑で作物を育てた。植えて収穫するだけでなく、草取りや水やりなどの世話をすることを通して、収穫の喜びと共に、収穫までに心を込めて世話をすることの大切さを学んだ。

▲畑の作物の手入れ（草取り）をする児童

＜３・４年生＞

地域の自然や、地域に伝わる民話について見学や調べ学習を通して学んできた。特に、地域の豊かな自然については実際に講師と共に見学に出かけ、山や川に触れることで、この自然を大切に守っていきたいという気持ちをもつことができた。

▲地域の川の水質を調べる児童

▲職業体験として介護の体験を行う児童

＜５・６年生＞

地域のプロフェッショナル「匠」を講師に迎え、実際に職業を体験する職業体験講座「匠の道」を行った。農業・林業・塗装・大工・介護・トリマー・フラワーアレンジメントの職業について、実際に「匠」から話を聞き、活動してみることで、自分たちの住む地域には素晴らしい「匠」がたくさんいる事に気づくとともに、「匠」の皆さんの生き方に触れ、将来について考えるきっかけとなった。

子供たちに付いた力	地域の方から教えていただきながらふるさとの事をよく知るとともに、ふるさとの良さを実感し、誇りがもてるようになった。
効 果	実際に地域の方から学ぶことで、地域やそこに暮らす人々の素晴らしさに気づくことができた。実際に体験したり、学んだことを発表したりすることで、より深い学びとなった。
今後の方向	これからも各学年に応じた「ふるさと学習」を通して、地域とのつながりを強め、自分たちのふるさとを大切に思う心を育てていく。

１８　下呂市立上原小学校

学　校　名	下呂市立上原小学校　（校長　　北條　裕也）
活動の種類･単位	総合的な学習の時間で３年生が福祉をテーマとして活動した。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

１ 活動テーマ

「ふ」だんの 「く」らしを 「し」あわせに
～自分ができるふくしとは？～

▲福祉講話:ゲームで学ぶ

２ 主な活動内容

〇学級として：福祉に関する講話聴講・体験学習

福祉講話：社会福祉協議会の方の講話やゲームにより福祉についての考え方を学んだ。

福祉講話：車いす利用者に来ていただき、体験談から前向きな生き方を学んだ。

福祉体験：高齢者体験セットを装着して校内を歩きまわり、高齢者の疑似体験から学んだ。

歳末募金：全校に募金を呼びかけ、募った募金を社会福祉協議会に渡した。

▲福祉体験:高齢者の疑似体験

〇個人ごとに：福祉に関する個別テーマの調査・まとめ・発表

・テーマ例

「車いすってなあに」
「目の不自由な人の気持ち」
「耳の不自由な人の気持ち」
「どんな時、手伝うの」
「点字ってなあに」

・調査は、図書館の本、インターネット、社会福祉協議会への電話、などで行った。

・まとめは、模造紙や画用紙に図やキーワードなどをまとめて掲示資料を作成した。

・発表は学習発表会（全校行事）で、ポスターセッション方式で、個別にプレゼンを５分ほど行った。

▲福祉に関する個別テーマの発表

子供たちに付いた力	・福祉とは、誰もが生活を幸せに生きることができるための工夫だと気づくことができた。 ・福祉体験や募金活動、自己課題の調査･発表をすることで、実行力が身についた。
効 果	・普段の係活動や掃除などで、自分から進んで行動する姿が増えた。 ・発表会を行うことで、自分の興味のあることについて、主体的にまとめることができた。
今後の方向	・今後も3年生の総合的な学習の時間では「福祉」をテーマとして継続し、地域に根づいた活動を展開していきたい。

19（中学校）　岐阜市立陽南中学校

学　校　名	岐阜市立陽南中学校　（校長　石原　学）
活動の種類･単位	中学１年生「地域との関わりの中で防災について私たちにできること」を考えた。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

「避難所開設時の対応」

ねらい：災害時に学校が避難所になった時のことを想定し、避難所で起こる様々な出来事への対応について模擬体験することで、身近な防災への関心を高め、家庭や地域の防災に取り組もうとする意識を高める。

2 主な活動内容

【講師　　岐阜大学地域減災研究センター　村岡治道　准教授】

〇もし、災害時に学校が避難所になった場合、どのようなことが起こるかについて説明を受けた。
〇避難所になった場合に、必要なもの、必要な配慮などを講師から聞いた。
〇グループごとに、学校の見取り図をもとに、避難所になった時に、どんなものが必要で、どこに設置するかについて考えた。
〇校舎内のどの教室を、どのような活用の仕方をするかを考えた。

陽南中学校が、避難所になったという想定のもと、生徒はグループごとに分かれ、避難所開設するにあたり、必要な物資、必要な場所について考えた。トイレをどこに置くか、情報をどのように知らせるか、ペットを連れてきた人がいた場合は、どのように対応するか等、講師から様々な状況が投げかけられた。グループで考える中で、ある生徒は、「ペットはここにしよう。」と提案すると、他の生徒が「そこにすると、よくない。だって…」と言いながら、「〇〇するとどうかな。」と新たな提案をしながら、避難所の運営について考えていた。避難所として、様々な人（お年寄り・外国人・赤ちゃんなど）がくることを想定しながら、誰もがよりよく過ごせる方法を生徒が主体的になって考えることができた。

▲ 生徒が見取り図に記入している様子

▲ 生徒が何を設置すべきか考えている様子

子供たちに付いた力	災害時には、多くの人が避難所に来るため、必要な配慮を考えたり、優先順位を考えたりするなど、多角的にものごとを考える力がついた。
効果	身近な防災への関心を高め、家庭や地域の防災に取り組もうとする意識を高めた。
今後の方向	次年度以降も継続して講師に来ていただき、１年生はHUG訓練、２年生はDIG訓練を行い、地域との関わりの中での防災について考えさせていく。

２０　（中学校）大垣市立赤坂中学校

学　校　名	大垣市立赤坂中学校（校長　中村　康男）
活動の種類・単位	歯科保健活動を、学校歯科医や地域の小学校と連携して行った。
教育課程上の位置付け	特別活動、その他（委員会活動）

１　活動テーマ　：

生涯にわたって主体的に健康づくりができる生徒の育成
～歯と口の健康づくりを通して～

２　主な活動内容：

（１）学校歯科医による歯みがき指導

①１年生対象

永久歯に生え替わる１年生を対象に、各学級へ学校歯科医と歯科衛生士等を講師に招き、適切な歯のみがき方についての講習会を行った。それぞれがカラーテスターを使い、みがき残しがある場所を把握するとともに、そのみがき残しがある部分を、どんな歯ブラシで、どのようにみがくとよいか教えてもらった。生徒たちにとって、歯科医等から直接指導をしていただく機会はあまりないため、ほとんどの生徒が興味深く話を聞いたり、教えていただいたみがき方を熱心に繰り返したりする姿が見られた。

②ハイリスク生徒対象

歯科検診でむし歯が複数本見つかり、診療を受けていない生徒を対象に、学校歯科医による２回目の歯科検診を行った。その際に、生活習慣や歯みがきに関する問診を行うとともに、今後のケアや管理についてアドバイスをいただいた。検診後、歯科医院を受診する生徒もおり、口腔内衛生に関する意識を高めることができた。

▲学校歯科医からの問診の様子

（２）青墓小学校との交流

小・中学校が連携した取組を通して、お互いの活動を活性化し、児童生徒の意識をさらに高めるために、今年度から本校の保健委員が小学校に行き、１年生を対象にした歯みがきの交流を始めた。

中学生は、「むし歯になる子が少しでも減り、歯をしっかりみがこうと思ってほしい」という願いをこめ、歯みがきの大切さを伝えるためには、どんな工夫をしたらよいかなどを事前に話し合うとともに、劇の内容を考えたり、使用する小道具などを作ったりして、意欲的に準備に取り組んだ。

小学生は、中学生の劇やみがき方の説明を見て、「中学生から歯のみがき方を教えてもらいうれしかった。これからは毎日歯をみがきたい」などの感想を記していた。

▲歯みがき指導を行う中学生

子供たちに付いた力	・適切に歯をみがくことや望ましい生活習慣を確立することの大切さを学ぶとともに、自分自身の健康づくりについて主体的に考えることができるようになった。
効 果	・学校歯科医より専門的な見地からの指導を得ることで、正しい知識や技能を習得するとともに、歯と口の健康づくりへの意欲を高めることができた。 ・小学校と連携した活動を行うことで、互いの取組を知ることができ、系統立てた指導ができるようになる。
今後の方向	・家庭との連携を図りながら、より一層効果を高める。 ・校区の幼保園との交流を行い、小学校入学前からの連携した取組を進める。

21　（中学校）土岐市立肥田中学校

学　校　名	土岐市立肥田中学校（校長　氷室　武志）
活動の種類･単位	心身の健康づくりとヤングスターズを柱にした全校ボランテイア活動
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間・特別活動・教科（体育）・その他（朝活動）

1 活動テーマ

健康な心と体のために自己管理できる生徒の育成

2 主な活動内容

（1）MSJ ヤングスターズの取組

MSJ ヤングスターズを中心として、挨拶運動や落ち葉掃き等のボランティア活動を行った。

本校の周囲には肥田小学校や幼稚園が隣接しているため、生徒はコロナウイルス感染拡大防止のためマスクをし、密にならないような対策をとりながら、地域の方々と共に笑顔で登校する児童生徒や地域の人に対し朝の挨拶運動を定期的に行った。また、挨拶運動前には落ち葉掃きも実施した。

▲毎朝の挨拶運動

▲落ち葉掃き

※「MSJ(マナーズ･スピリット･ジュニア)リーダーズ」;地域や学校で防犯や交通安全の啓発活動に取り組む中学生

（2）心身の健康に関わる取組

保健室には心理的ストレスや悩み、いじめ、不登校、精神疾患などメンタルヘルスに関する課題やアレルギー疾患に関する悩みを相談しに来る生徒が増えてきている。そういった相談をしに来室した際に、プライバシーの保護のため、他の生徒から見られないようにするために、今回の日赤の助成を活用してパーテーションを購入した。パーテーションのお陰で、来室した生徒は安心して相談する姿が見られるようになった。現在、不登校生徒も０名である。

▲保健室のパーテーション

（3）日赤からの情報活用

新型コロナウイルス感染症予防についての話を放送で何度か実施した。養護教諭が話たり、生徒が放送で話たり、自分たちが感染しないということだけではなく、自分たちの後ろにいる大切な家族や多くの方々を感じることができた生きた教材になったと思う。コロナ禍で登校できない日々が続いたことで、友人に会える、学校で勉強ができるといった、当たり前のことができないことのもどかしさ、当たり前がどれだけありがたいかということを生徒自身感じることができた。また、市内で発生した際には、日赤からいただいた資料を使いながら、人権についても学ぶことができた。

3 まとめ

今年度の活動は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため当初の計画から見ると十分にできなかったが、生徒一人一人の心を大きく育て「気づき・考え・実行する」という態度目標が知らず知らずのうちに実践できてきたように感じる。また、日赤からいただいた様々な情報が非常に参考になり、生徒の成長の一助になったことがとてもありがたかった。

子供たちに付いた力	･一人一人に気づき･考え･実行する力がついた。
効 果	･これまでしてきたことを、自分たちが意識したことで、一人一人に気づき･考え･実行する力がついた
今後の方向	･コロナ禍の中でも、自分たちでできることを一つ一つ取り組んでいく。 ･計画にないことでも自分たちで「気づき」、「行動」できるようになると良い。

２２　（中学校）　恵那市立恵那東中学校

学　校　名	恵那市立恵那東中学校（校長　吉村　良）
活動の種類･単位	その他(防災教育)
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間及びその他(有志による研修)

1 活動テーマ

防災活動を核とした、地域コミュニティとの協働による地域社会人の育成

2 主な活動内容

将来起こり得る南海トラフ地震等の災害に備え、中学生が防災リーダーとなって地域住民と共に協働で防災活動ができるよう、防災に関する知識・技能を身に付ける研修と訓練を重ねることで、地域社会人として活躍できる人材を育成しています。

新型コロナウィルス感染症の拡大のため、今年度は市の防災訓練が大々的に行われませんでした。そこで11/22(日)、代替訓練として大井町では地域のリーダーの方々を中心に避難所開設・運営の訓練が行われました。恵那東防災リーダー実行委員会はその訓練に参加し、地域のリーダーの方々とともに避難所の開設から運営までの流れを確認し、活動に臨みました。

「施設管理」「総務・情報」「食料・物資」「救護・衛生」「避難所運営」の５つの班に分かれ、実際に災害が起こったことを想定して、避難所の開設から撤収までを行いました。参加した１３名の恵那東防災リーダーは、活動のいたるところで積極的に、笑顔で動く姿がありました。

- 当日朝、8時５０分に集合でしたが、３０分前には会場である大井第二小学校に到着し、準備を手伝う姿がありました
- どのリーダーたちも、地域の方々に大きな声で挨拶ができ、生き生きとした表情がありました。
- 自身の役割が終わった後、ミーティングに参加し、地域の方々と活動を振り返り、協議を重ねる仲間がいました。
- 役割は決まっていましたが、その役割を超えて積極的に活動に参加し、簡易パーテーションの組み立て等に取り組み清掃時には率先してモップで体育館を磨きました。

こうした中学生の姿を見た地域の方々からは、「中学生の意欲的な姿に元気がもらえる。」「災害が起こった時に、頼れる若い力があることは、町の誇りだ。」等々、たくさんの感謝の言葉をいただきました。

今後も防災に関する研修を重ね、地域社会人として活躍できる中学生に成長していきます。

▲大井町防災訓練の活動の様子

子供たちに付いた力	・防災リーダーをはじめ、日頃から災害が起こった時のことを想定し、被害を最小限に抑えるため必要なことを考える等、生徒の防災意識に高まりがみられた。
効 果	・避難所運営の中心となって動く中学生の姿を見て、「中学生があれほど頑張るなら…」と、地域住民の防災意識を高めた。自治会長をはじめ住民のリーダーが防災訓練に参加するとともに、より主体的に避難所運営に携わろうとする姿が見られるようになった。
今後の方向	・1 人 1 台のタブレットが配付されることを受け、生徒一人一人がミニ防災士となり独居老人をはじめ、地域の住民に避難の仕方や災害時の危険場所等をプレゼンしたい。

２３　（中学校）　中津川市立第一中学校

学　校　名	中津川市立第一中学校　（校長　寺田　英昭）
活動の種類･単位	健康安全、自他の命を守る活動（全校・地域）
教育課程上の位置付け	道徳、特別活動、総合的な学習の時間

１ 活動テーマ

自他の命を守り、地域社会に貢献する青少年の育成　～地域と連携した防災教育を通して～

２ 主な活動内容

（１） 新型コロナウイルス感染防止対策を講じた避難所開設訓練

大雨や台風のシーズンを前に、学校職員、校区の防災士、区長、消防、警察、市職員が参加して、訓練を行った。受付での検温や体調確認の仕方、体調不良者の隔離の仕方、密集･密接を避けた居住エリアのレイアウト、施設消毒の仕方、避難所スタッフの感染防止のための防護服やフェイスシールドの正しい着用と処理方法などについて、実際に参加者が体験しながら確認した。

▲避難所開設訓練　受付の様子

例年、生徒と地域住民で合同の避難所開設訓練を行い、地域防災の担い手として、生徒の自助･共助の意識とスキルを高める機会としているが、今年度はそれが実施できなかった。そこで、この訓練の様子や要点を後日生徒に伝えた。

この訓練のことを知った宮城県石巻市の防災NGO団体の方から、避難者居住エリアの床断熱とクッション、パーティションとしてスタイロフォームを用意するとよいというアドバイスをいただいた。そこで今回の交付金を活用し、まずは20枚を整備した。

スタイロフォームの使用例

（２） 命を守る訓練

7月には地震発生時の身の守り方をつかむためにシェイクアウト訓練を実施した。緊急地震速報を聞いてすばやく頭を守る行動をとり、揺れが収まってから避難経路の状況を確かめ、迅速に避難することを確認した。2月の訓練では、岩手県釜石市の子どもたちが東日本大震災での津波からどのように自分や地域住民の命を守ったのか、映像資料を視聴して学んだ。

訓練では、必ず生徒が意見交流する場を設けている。停電、建物や窓ガラスの破損、火災の発生など、起こりうる具体的な状況を想定しながら、避難の仕方や避難経路の問題点や改善案について意見が出された。停電時を想定して、軽量で高性能なポータブル拡声器が必要との意見を受け、今回の交付金で2台を整備した。

▲シェイクアウト訓練の様子

子供たちに付いた力	･災害や感染症から命を守るためにどうするか、考える力、行動する力 ･自他の命を守るための、防災、衛生、人権についての高い意識とノウハウ
効 果	･感染症リスクを想定した避難所開設や運営について、学校･地域で共通理解できた。 ･命を守り抜くことを自分の問題として真剣に受け止める生徒が増えた。
今後の方向	･今年度は地区別にグループを編成してのDIG訓練を実施できなかった。校内だけでなく、自分の暮らす地域での命の守り方について学び、釜石の子どもたちのように、高い意識とスキルで地域の防災に貢献できる生徒を育成していきたい。

２４　（特別支援学校）各務原市立各務原特別支援学校

学　校　名	各務原市立各務原特別支援学校　（校長　安田ゆかり）
活動の種類･単位	防災教育・全校
教育課程上の位置付け	特別活動、社会生活学習

１ 活動テーマ

一人一人が自分の命は自分で守るという意識をもって、災害発生時に命を守る行動と安全な避難ができるように、日ごろからの防災に対する備えや防災意識を高めるための防災教育

２ 主な活動内容

（１）防災教育について

・全校集会などで防災や避難訓練、青少年赤十字活動等について説明した。
・各自で用意することになっている備蓄非常食の常備を点検した。
・「社会生活学習」に防災教育の単元を設け、学年ごとで年間計画をもとに防災に関する学習に取り組んだ。３年間を通した防災学習を計画した。
　１年次　避難時の約束、安全な避難ルート、非常食の確認
　２年次　家のＤＩＧ、非常食の確認、防災カード、ハザードマップ
　３年次　地域の安全、非常食の確認、防災グッズ

（２）防災講習会

・防災教育のまとめとして、県支部の方を講師に招いて、救急法やハイゼックスによる炊出しを全校生徒および教職員を対象に実施した。

▲ハイゼックス炊飯の準備

▲バンダナを使った救急法

（３）命を守る訓練（年３回、①６月、②９月、③１月）

・緊急避難時の心構えとして、事前にダンゴムシの姿勢を確認してから行った。
　①地震時を想定し、冷静かつ迅速にグランドへ避難する訓練を実施した。
　②地震時を想定し、グランドに避難した後、学びの森へ二次避難する訓練も行った。
　③事前告知をせずに、地震時を想定した避難訓練を行った。
・今年度はコロナ禍のために実施できなかったが、例年は命を守る訓練とともに校内のＤＩＧ訓練や煙道体験、職員の消火訓練も実施している。

（４）防災教育図書と防災備品の充実

防災に関する様々な本を購入し図書室に配架し、防災に興味関心を示した生徒たちが日常的かつ自由に学ぶことができるようにした。また、災害時用救急箱と非常用ランタンを購入し、災害時に必要となる防災備品を充実させた。

子供たちに付いた力	・自分の命は自分で守るという防災意識。 ・災害に備え安全に生活するために主体的に考える力。
効 果	・新たに始めた防災教育の取組を通して、生徒たちの防災に対する興味関心が高まった。特に災害時の大変さや非常食、救急法について学ぶことで、いざというときのために日ごろから備えておく大切さが理解でき、防災意識が高まった。 ・自分の命を守り安全に避難するために、何を備えどう行動したら良いかを今まで以上に深く考えられるようになった。
今後の方向	・今年度から始めた防災教育を、来年度以降も継続して取り組むことで、一人一人の防災意識と防災対応力を高め、より効果的な防災教育の定着を図る。

２５　（特別支援学校）岐阜県立郡上特別支援学校

学　校　名	岐阜県立郡上特別支援学校（高井　繁喜）
活動の種類･単位	家庭生活、社会生活で活かせる防災教育の取り組み　　（健康安全）
教育課程上の位置付け	特別活動、防災教育、生活単元学習

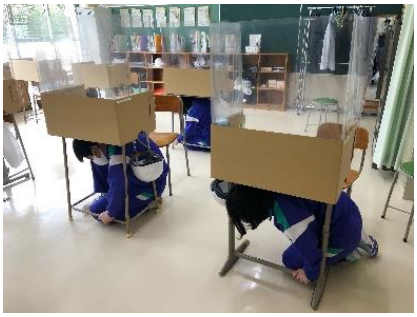
１ 活動テーマ

非常食や防災用品、緊急地震速報を実際に体験する活動を通して、地域や家庭で災害に遭遇した際に自分で考え、行動できる実践力を身に付ける。

２ 主な活動内容

（1）緊急地震速報を用いた安全行動１、２、３（シェイクアウト）の訓練

・月に一度、緊急地震速報を用いた訓練を実施し、地震発生時の安全行動（初動）を繰り返し行った。



▲命を守る訓練の様子

（2）防災備蓄食（自助バッグ）の確認と試食体験

・自助バッグとして備蓄している、防災備蓄食や防災用品を点検し、必要なものを考える学習を行った。

・実際に家庭で非常食を試食し、自分が食べることができるものなのか確認する体験を行った。

▲防災備蓄食の確認

（3）ポータブル発電機の使用体験

・ポータブル発電機の操作方法やできることを考え、実際に電源をとる体験を行った。

子供たちに付いた力	･教師が指示をしなくても、避難しようとする判断力 ･実際の災害の状況を想定して非常食や防災用品の使用について考える思考力
効 果	･実際のものを使用するものことで、緊張感をもって学習を行うことができた。 ･自家発電機を使用し、そこから電源をとる活動を通して発電機の機能について実感として理解することができた。
今後の方向	･災害時の備えとして様々な防災用品を準備しながら、防災学習として学習の中で使用し、防災に関する実践力を身に付けていけるようにしていきたい。

ちかい

わたくしは
青少年赤十字の一員として
心身を強健にし
人のためと郷土社会のため
国家と世界のために
つくすことをちかいます

令和２年度

岐阜県青少年赤十字研究推進モニター校活動事例集

令和3年4月1日発行

日本赤十字社岐阜県支部
〒500－8601　　岐阜市茜部中島２－９
TEL　（058）272－3561　FAX　（058）274－6938